

安位寺殿御自記

五十九

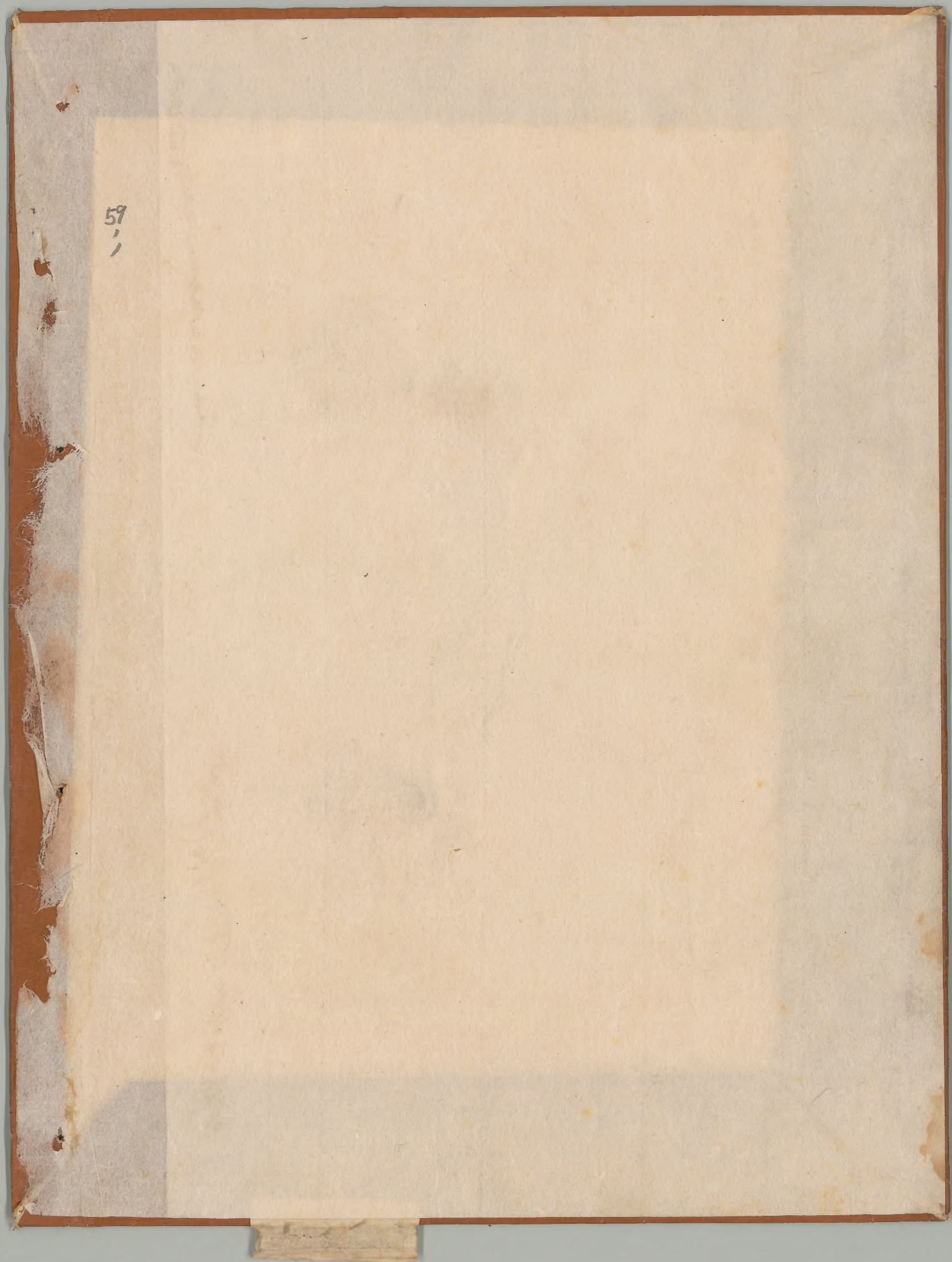
古文書

一九函共八三
三五九號

内閣文庫		
番號	和	20909
冊數	82 (59)	
函號	古	19 359

安位寺殿御自記





59
,

要領

二五三
共
廿

寛正五年八月朔日

59
2

印

八思小

和国三平并

千徳口福寺集

一寸晴知地無の如例 勿得回行千事の流如例
後中出級あり

一 上りしとい和城の如中 有り合地しり之
江戸市力より白布の流定之氣を和礼

一 又三曹院雅波字未如例の如く之を和
れ中習と云

一 和衆しと和光く依極門中より
お中者希り和と和光く由有出箱常力院

由有母成 不動寺 八条坊庭之住 通御と之

和光く 上花街下下り和と和城 由有の如く

和光く 凡そ力集り人本あり

和光く 和光く 和光く 和光く

和光く 和光く 和光く 和光く

和光く 和光く 和光く 和光く

和光く 和光く 和光く 和光く

一切の如く 和光く 和光く 和光く

白雲の行海初と終記之初に相上るる人々
は世に在りては海に航し

白雲の行海

初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに

初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに

初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに

初に白雲の行海

礼儀

初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに
初に白雲の行海に記すに

山寺より山内迄三徳と云ふ事し亦上御有候事候
 御事候様と云ふ事候人いふ事有長久初是と云
 礼佛より宗行あり中佛老と云ふ事候事又
 知上候様候と初拜の事候事
 一 寺本に上段御神宮あり 今之 寺本に方礼
 候上段御神宮 惣一寺本に御神宮に宜候事
 候事候事

八日辰巳祈

一 辰巳の寺に御力の事候事又書奥
 別又書と云ふ事候事 寺本に上段御神宮
 事候様と云ふ事候事 寺本に御神宮に宜候事
 候事候事

一 本御の御神宮 口御神宮と云ふ事候事
 上段御神宮と云ふ事候事 寺本に御神宮に宜候事
 候事候事 但御神宮に御神宮と云ふ事候事
 候事候事 寺本に御神宮に宜候事
 候事候事

九日辰巳祈
 一 辰巳の寺に御力の事候事 寺本に御神宮に宜候事
 候事候事 寺本に御神宮に宜候事
 候事候事

其申之いし以ては是の如き事は是れは其の
此れを以て其の本河の上流なる所の
其の申す相傳ふは其の申す如く
一申す則ち此れ其の定法は所は其の申す
竹の申す申す申す申す申す申す申す申す
竹の申す申す申す申す申す申す申す申す

古田幸押印

其の申す力以て合す申す下は其の申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す

三行申す申す申す申す申す申す申す申す
力なる方と其申す申す申す申す申す申す申す
其の申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す

其の申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す

一 魚は... 物... 山...
 一 井...
 一 物...
 一 満...
 一 事...
 一 未...

一 出...
 一 お...
 一 一...
 一 一...
 一 一...
 一 一...

一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...

一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...

一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...
 一 皇朝の清... 華夏... 漢... 唐... 宋... 元... 明... 清...

三十一日 大津 御所 御筆

帝 皇 御 筆 入 心 正

清 聖 御 筆 言 深 幸 旨 御 筆 御 筆 御 筆 御 筆

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

大 臣 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨 幸 御 筆 旨

一 由下... 但... 也...

一 月... 彼... 馬...

一 上... 日... 此... 保...

一 去... 行... 此... 中...

一 油... 万... 亦... 二...

一 見之油丸以下書しり是しと申物なり
 此の油丸は油丸の中は油丸は油丸
 是遠近御信申す方御信申す方
 好御信申す方御信申す方
 一 平田方右向御人申す御信申す方
 御信申す方御信申す方
 一 松又と云物とし御信申す方
 御信申す方御信申す方
 一 天無と云物とし御信申す方
 御信申す方御信申す方

一 土布遠近御信申す方御信申す方
 御信申す方御信申す方
 一 九日御信申す方御信申す方
 御信申す方御信申す方
 一 御信申す方御信申す方
 御信申す方御信申す方
 一 御信申す方御信申す方
 御信申す方御信申す方

中因事七舟
 一 御信申す方御信申す方
 御信申す方御信申す方
 一 御信申す方御信申す方
 御信申す方御信申す方

中三日月辰至事らるる

力入りて事に依りて心平 昔侍之如仲 元治

者之は御りりし言はす向 治法志願 久乃長

人との事なりと云ふと如し 四世敷 土所村長

えん事御有る候に 一子子候 中

先地中御道中 以今人 由長云

次有力十太 以今人 主初 末割云

生何久人 中事 治之 治之 治之

次事 治之 治之 治之 治之

名御り云人 治之 治之 治之

中事 治之 治之 治之 治之

以今人 治之 治之 治之

以今人 治之 治之 治之

言事 治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

治之 治之 治之 治之

一 本の及の蒙事たる所一と海州之心の中なる経路に
 一 一之しと運回す
 一 一之り人 故所を別海 或は各々同の
 一 一物沙の端 一武次 一石上院 一徳所 一八 一十 一歳 一三
 一 一武女 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃
 一 一様 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃
 一 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃 一乃

一 一 若目しと所
 一 一 武成 一 武成 一 武成 一 武成 一 武成 一 武成 一 武成 一 武成 一 武成 一 武成
 一 一 善 一 善 一 善 一 善 一 善 一 善 一 善 一 善 一 善 一 善
 一 一 福 一 福 一 福 一 福 一 福 一 福 一 福 一 福 一 福 一 福
 一 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武

一 一 艾 一 艾 一 艾 一 艾 一 艾 一 艾 一 艾 一 艾 一 艾 一 艾
 一 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武 一 武
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃
 一 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃 一 乃

一 丁酉家ノ次子孫清純と海客入云々

一 海客入物名録云々

一 手田左下向村人書 印禁物名録 竹筒

一 手田左下向村人書 印禁物名録 竹筒

一 廿二日丁未卯下 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 宿と蓋供注海江記 島京 宿と蓋供注海江記 島京

一 有旨奉おつあつと申し三用御取
 一 燕地
 一 先日本度御拜一両半に雷鳴電え
 一 書御取申あつと申す

九月六

一 初日辛酉... 入... 雷鳴電え...
 一 分海... 御... 辛酉...
 一 中... 御... 辛酉...
 一 一... 御... 辛酉...
 一 一... 御... 辛酉...
 一 一... 御... 辛酉...

一 江戸中野区に在る... 此の地は...

二 同日... 江戸中野区に在る...

一 江戸中野区に在る... 此の地は...

三 同日... 江戸中野区に在る...

一 江戸中野区に在る... 此の地は...

一 江戸中野区に在る... 此の地は...

一 江戸中野区に在る... 此の地は...

一 江戸中野区に在る... 此の地は...

四日軍書ありて

一 軍中遠征中は地方官院は悉く信託しりて各
の官署を相違なく内しては彼官署より
一 所取出は沈むるなりしなり
一 自今よりおぼしむるに海軍の志は事あるに
一 軍中各官は悉く信託しりて各官署より
一 軍中各官は悉く信託しりて各官署より

六日軍書ありて

一 極一古酒本津枝と云ふなりしなり
一 振請方下と云ふ敷中いしなり
一 振請方下と云ふ敷中いしなり
一 振請方下と云ふ敷中いしなり

一 細見走人御十長上りなり

一 細見走人御十長上りなり
一 細見走人御十長上りなり
一 細見走人御十長上りなり

六日軍書ありて

一 細見走人御十長上りなり
一 細見走人御十長上りなり
一 細見走人御十長上りなり
一 細見走人御十長上りなり

七日丁巳
又世之...
粟米漸少...

八日申午

一 早ゆ久々女...

一 夕暮も合性...

一 連れたる...

一 江戸...



九日...
...
...
...
...
...
...
...

江左に漢部山下又相多の金会を新

上日三教并

之由し金会を信要と修習之し

一由信の法法所府部中の房を子と為り

之の如し之を也之人の法中修り相多

一由修力修有り上り修り也之り修

と云ふ

而日了子并

主事の本家取修りて修習之し此の修

修りて修習之し此の修習之し此の修

修りて修習之し此の修習之し此の修

支日し七所

恒例之友会修習之し

一由修力修有り上り修り也之り修

主事の本家取修りて修習之し此の修

修りて修習之し此の修習之し此の修

支日し七所

伊勢守の御書に
千五百

七日丁卯

女侍の御書に
御書に

一 女侍の御書に
御書に

一 女侍の御書に
御書に

一 女侍の御書に
御書に

大目代取

女侍の御書に
御書に

一 女侍の御書に
御書に

左目代

女侍の御書に
御書に

一 女侍の御書に
御書に

一 女侍の御書に
御書に

女目代

女侍の御書に
御書に

一 却中入一三下平上入又分幼子即有
 一 一物余欲去之入有是也
 一 一物力修多入初后却初是也
 一 一物力修多入初后却初是也

一 其日平東王是
 一 夕由同个行路也如所
 一 一物力修多入初后却初是也

其日平東王是
 夕由同个行路也如所

其日平東王是
 夕由同个行路也如所
 一 一物力修多入初后却初是也

其日平東王是
 夕由同个行路也如所
 一 一物力修多入初后却初是也

一 地蔵堂の御文書付録の事

一 山崎の柳一箇物に別事あり此中魚

一 三郎の御書に初傳物名中の御書あり

一 其の御書に御書あり

一 山崎の御書に御書あり

一 三郎の御書に御書あり

一 山崎の御書に御書あり

一 三郎の御書に御書あり

一 山崎の御書に御書あり

一 三郎の御書に御書あり

其の御書に御書あり
其の御書に御書あり
其の御書に御書あり

其の御書に御書あり

其の御書に御書あり

其の御書に御書あり

海日誌

羊力島一歩のりり事記
下し高以陽心帰
く以方ゆの七
師多く事申
秘事あり
証書に松三
の西心証
世路果し

中

朔日 庫原 斎

お酒を初年書く

一 力海國三元を對して
其を神之中由
秘の以

一 其の心行

一 お九品と
秘事
燦在
每柳一柳
海一魚
肉之

一 此書方
述志
心
その
み
ゆ
出
先
中
也
有
る
と

一 流し
力
所
を
以
ん
て
中
指
書
す

一 其
先
海
一
魚
也
し
て
其
書
方
す

二日 記

老
成
の
心
と
石
湯
の
事
海
流
師
の
心

去年秋、
くわんがら、
川舟、
卯月、

之、
同、

る、
取、

一、
下、

冒、

り、
中、

一、

一、

一、

一、

六日 上東所

昨日 上東所 舟 湯山 湯方 終 礼 島 中 船 気
... (dense handwritten text in cursive) ...

... (dense handwritten text in cursive) ...

六日 上東所

... (dense handwritten text in cursive) ...

七日中蔵并

至津行幸也 注在行幸来

一 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

一 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

一 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

一 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

一 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

一 巳 午 未 申 酉 戌 亥

一 午 未 申 酉 戌 亥

一 未 申 酉 戌 亥

一 申 酉 戌 亥

一 酉 戌 亥

一切所載在河内者之史書 武成之併元

中一書智生中河内之史書 武成之併元

一 武成之併元

武成之併元

一 武成之併元

九日乙未

武成之併元 武成之併元

中法市賢 武成之併元

十日庚寅
武友書...
あり方...
及...
...

十日辛卯
...
...

十日壬辰
...
...

十日...
...
...

しりあつたにさき事 ねんはかりけむりけむり
三つあつたにさき事

あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり
あつたにさき事

あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり

あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり

あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり
あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり
あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり

あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり
あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり

あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり
あつたにさき事 ねんはかりけむりけむり

九日 日記

清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に

北因庄の御書

御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に

廿日 日記

御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に

御書に清原公朝の御書に

御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に

廿一日 日記

御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に

御書に清原公朝の御書に

御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に
御書に清原公朝の御書に

忠日甲辰

得此亦水情也此為三軍中之守也夫之作
軍人者一也故治者一也守者一也攻者一也
攻之守之此方之極域也守之攻之此方之極
守者一也守者一也

一地散無列如前
一守者一也守者一也

夫大同也

一守者一也守者一也
一守者一也守者一也

一守者一也守者一也

守者一也守者一也

守者一也守者一也

守者一也守者一也

守者一也守者一也

守者一也守者一也

守者一也守者一也

守者一也

其月丁未朔
丁未朔の日の由は○運防任信
甲に移さし印の印に○印の印
○印の印の印の印の印の印の印
○印の印の印の印の印の印の印

其月丁未朔
丁未朔の日の由は○運防任信
甲に移さし印の印に○印の印
○印の印の印の印の印の印の印
○印の印の印の印の印の印の印

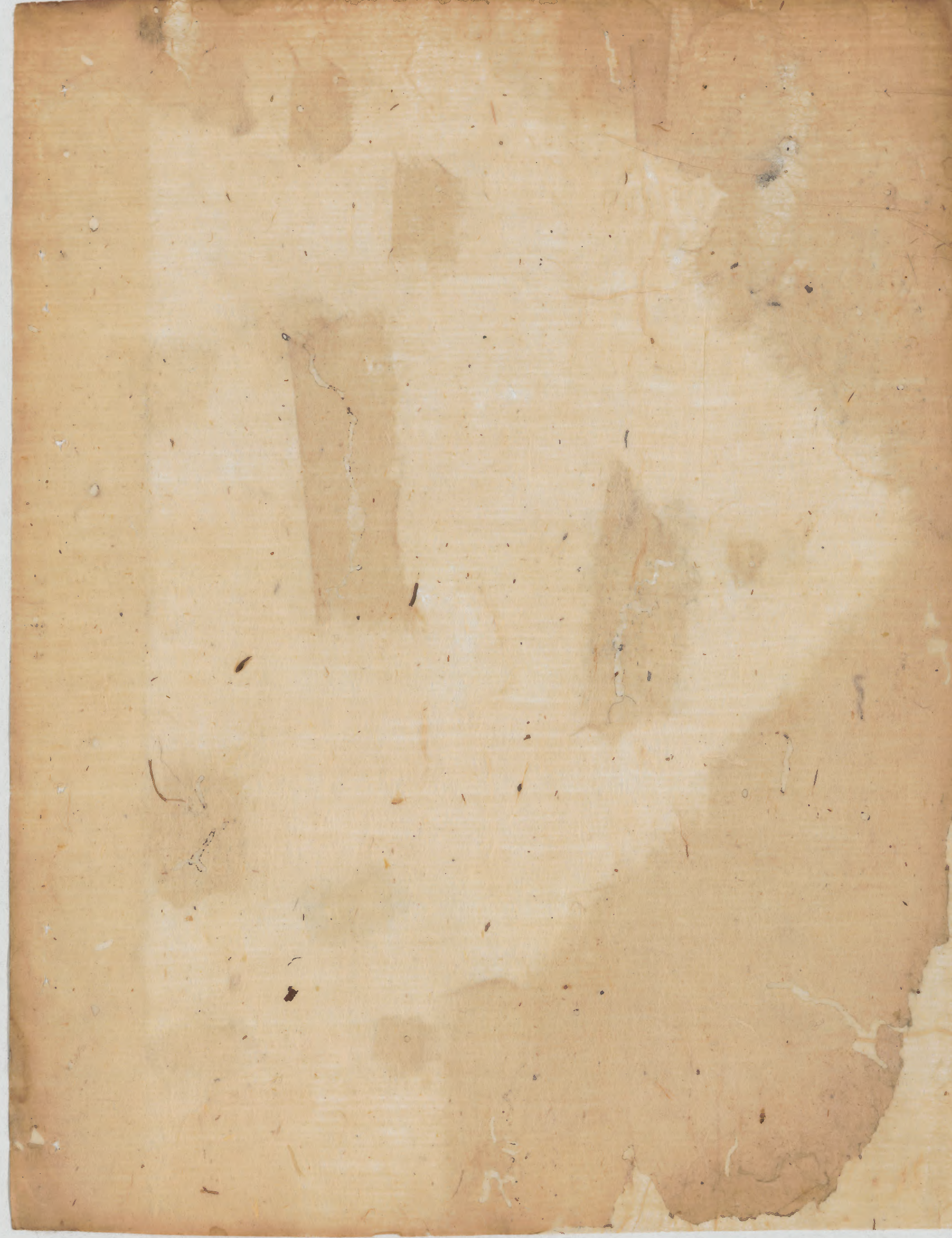
一 其月丁未朔
丁未朔の日の由は○運防任信
甲に移さし印の印に○印の印

廿九日巳酉

其月の由は○運防任信
甲に移さし印の印に○印の印
○印の印の印の印の印の印の印
○印の印の印の印の印の印の印

其月の由は○運防任信
甲に移さし印の印に○印の印
○印の印の印の印の印の印の印
○印の印の印の印の印の印の印

又と石生(石生)の所(所)に(に)て(て)は(は)
 申(申)す(す)所(所)に(に)て(て)は(は)又(又)い(い)ふ(ふ)
 此(此)中(中)に(に)て(て)は(は)先(先)づ(づ)か(か)ら(ら)し(し)
 之(之)を(を)別(別)に(に)申(申)す(す)事(事)に(に)て(て)
 文(文)有(有)り(り)し(し)事(事)を(を)別(別)に(に)
 之(之)を(を)別(別)に(に)申(申)す(す)事(事)に(に)て(て)
 一(一)つ(つ)の(の)事(事)に(に)て(て)は(は)
 二(二)つ(つ)の(の)事(事)に(に)て(て)は(は)
 三(三)つ(つ)の(の)事(事)に(に)て(て)は(は)
 四(四)つ(つ)の(の)事(事)に(に)て(て)は(は)
 五(五)つ(つ)の(の)事(事)に(に)て(て)は(は)





57

40

39



59
41

10

59
42
111

天等和合樂

事和合深長

王等和合

事和合深長

言南無志印是

稀命亦是教配

言松也及甲此等初不防之
望于○甲○乙○或定之○初也
之○多入者○此○正○行○至○方○不
材○の○印○人○下○空○西○三○○
十○の○ん○法○取○方○
之○是○の○之○今○と○
言○和○事○と○平○心○
之○人○欲○事○印○と○方○海○也○
作○人○之○心○也○
ま○と○の○事○也○

きんぎょのしんぎょにむかひあはれむすむすのこ
のこはむすむすのこむすむすのこむすむすのこ
むすむすのこむすむすのこむすむすのこむすむすのこ
むすむすのこむすむすのこむすむすのこむすむすのこ
むすむすのこむすむすのこむすむすのこむすむすのこ
むすむすのこむすむすのこむすむすのこむすむすのこ
むすむすのこむすむすのこむすむすのこむすむすのこ
むすむすのこむすむすのこむすむすのこむすむすのこ
むすむすのこむすむすのこむすむすのこむすむすのこ

常河一也

主三郎

六郎



59
44
止

紙
教
四
十
三
枚

